

た。続いて、ICRPのルーム博士が「DDREFに関するICRPの現在の方針」と題して講演を行った。その後、放影研の小笹晃太郎 疫学部長が「原爆被爆者のがん以外の疾患に関する現在の研究」と題して講演。続いて、ICRPのタマラ アジゾバ (Tamara Azizova) 南ウラル生物物理学研究所副所長が「マヤック (Mayak) 作業者の循環器疾患」について講演した。

これら全ての講演の最後にロバート L. ウーリック (Robert L. Ullrich) 放影研副理事長とICRPの伴博士が司会を務め、「放射線健康リスク研究と放射線防護システムの将来」に関して討論会が行われた。

ICRPは、放射線防護に関する勧告と指導を世界的規模で行うことを目的に1928年に設立された英国の民間

団体で、その科学事務局はカナダのオタワに置かれており、約30カ国から集まった放射線防護分野の著名な研究者や政策立案者など、200名以上のボランティアが委員を務める。

放影研広島研究所と東京大学で開催されたこのたびの合同会議は、国際的に評価の高い機関を放影研の若手研究員に紹介する効果があったばかりでなく、ICRPと協力することによって広島と長崎以外に東京でも放影研の知名度を上げる良い機会となった。丹羽理事長は「4日間にわたって参加者の間で率直かつ有益なコミュニケーションが持たれた。このような会議は科学にとって大変有意義だ」と述べた。

第7回放射線生物学者のための疫学研修会 満員御礼で嬉しい悲鳴

広島・疫学部 主任研究員 坂田 律

放射線影響研究機関協議会*主催の「第7回放射線生物学者のための疫学研修会」が2016年8月29日と30日の両日、放影研広島研究所の講堂で開催されました。外部の48名に加えて所内からも大勢の参加者があり盛況でした。

今回は、モーニングセッションとして8時半から「専門でない人のための放射線生物学」の時間を設け、1日目はパート (I)として、野田朝男 分子生物科学部副部長にお話しいただいた後、小笹晃太郎 疫学部長と丹羽太貫 理事長が挨拶し、開会となりました。

「専門でない人のための疫学」(私、坂田)、「原爆被爆

者寿命調査の最近の結果」(小笹疫学部長)、「心疾患のリスク」(児玉和紀 主席研究員)と放影研の疫学研究とその結果についてのレクチャーの後に、「放射線の遺伝的影響：ヒトでは見えない理由」(中村 典 分子生物科学部顧問)で午前のセッションは終わりました。

昼食時間に予定していた参加者の自己紹介は、参加者が多く身動きの取れない状態だったため断念しました。

午後は「放射線被曝と甲状腺がん」(今泉美彩 長崎臨床研究部放射線科長 兼 臨床検査科長)、「若年被ばくは発がん感受性が高いのか?」(定金敦子 疫学部副主任研究員)、「胎児の被ばく影響調査：残された課題」(濱崎幹也 分子生物科学部研究員)、「放射線による白血病誘発の機構」、「マウス実験と疫学研究の相互理解・序説」(中村顧問)の講演がありました。

ほとんどの方が懇親会にも参加くださった。ロバート L. ウーリック (Robert L. Ullrich) 副理事長と、馬淵清彦先生 (米国国立がん研究所主任研究員)に挨拶をいただき、遅くまで親睦を深めました。

2日目は、モーニングセッション「専門でない人のための放射線生物学 (II)」(中村顧問)の後、論文中で用いられている式に詳しい解説を加えながらの論文紹介「自然発がん



講堂で開かれた研修会の様子。写真左奥は講演者の坂田 律 疫学部主任研究員

の組織間の差 (Tomasetti 論文紹介) (三角宗近 統計部研究員)、「疫学と生物学をどうつなぐか」(馬淵先生)、「放射線発がん幹細胞」(丹羽理事長)のレクチャーがあり、総合討論を行って閉会となりました。

講義の中で中村顧問が、放影研の疫学論文の理解が困難だった自身の経験から、「統計学者、疫学者が近くにいない他施設の生物学者はなおさらと思う」と、この研修会を始めたきっかけを語りました。

今回は保健物理学会でも告知をしてくださったお陰で参加者の幅が広がりました。多様な分野、バックグラウンドの方に参加いただけることは、交流の促進、様々な面から見た議論という意味合いで非常に嬉しいことですが、その一方で、研修会や講義の内容が、幅広い対象を意識したものとなり、盛り沢山になってしまいがちです。基礎的な講義は一カ所に固めるなど、プログラム構成を検討しなければいけないと思いました。

今回、初めて放影研の技術職の方々にも参加いただきました。放影研のミッションの再確認、基礎の復習の一助となれば幸いです。参加いただいた方々、講義を担当



ワークショップのプログラム

してくださった方々、運営をお手伝いくださった総務課、疫学部の方々に御礼申し上げます。ありがとうございました。

* 放射線影響研究機関の相互理解と連携を深めることを目的に、環境科学技術研究所、京都大学、長崎大学、弘前大学、広島大学、福島県立医科大学、放射線医学総合研究所、放影研 (50 音順) により構成された協議会。